

平成30年度 第2回坂東市行政改革懇談会

1 日 時 平成30年10月30日（火） 午後1時30分～午後3時30分

2 場 所 坂東市役所3階 大会議室

3 出席者

(1) 委 員 飯田修委員、市川充男委員、川島弘行委員、倉持せつ子委員、
霜田礼子委員、染谷かおり委員、田村光子委員、根本富美江委員、
林淳一委員、東田竜司委員

(2) 鈴木清副市長

(3) 事務局 企画部長、企画課長、課員5名

欠席者 荒曾我義孝委員、上坂理一委員、

4 会議要旨

(1) 副市長挨拶（要旨）

皆様も御存知のとおり、只今の行政上の課題は人口減少・少子高齢化等への対応と克服となっているが、この問題については国においても、そして地方においても決定打となる解決策を見出せていない状況となっている。人口減少による地域経済の縮小、高齢化に伴う社会負担の増加など様々な問題が予想される中で、未来に負担を残さない、将来を見据えた経営的な感覚での行政運営、そして、多くの人に住んでいただけるまちづくりを進めていかななくてはならない。

本日、皆様にご意見を頂戴する「新行政改革プラン案」については、経営的な視点に基づき今後4か年の行政改革の指針として策定するものであり、これと併せ、改革の一環として、効果的・効率的な市役所の組織のあり方についても検討を進めているところである。

また、本案では、改革の目標として「みんなで取り組むスリムで質の高い行政経営」を掲げていることから、市民の皆様とともに取り組み、実効性ある改革を進めてまいりたいと考えている。

本日は様々な分野でご活躍の皆様にご出席いただいていることから、是非忌憚の無いご意見をお聞かせいただきたい。

(2) 議事（概要）

①坂東市新行政改革プラン2018-2021（案）について

②その他

5 意見交換・質疑記録（概要）

1 前回の会議（7月27日）からの経過・本日の会議の進め方

事項	意見・質問（要旨）	回答（要旨）
パブリックコメントの実施について	パブリックコメントを実施したが、意見が1件も無かったと先ほど説明があった。これについて、事務局においてどのような動きをしたのか伺いたい。	<p>今回実施したパブリックコメントについて、広報ばんどうお知らせ版及びホームページにおいて意見募集の呼びかけを行った。その他、市役所、さしま窓口センター、企画課窓口の3カ所に閲覧資料を配置した。</p> <p>過日各委員へ送付させていただいた資料と同じものを公表案として実施した。</p> <p>しかしながら、今回の意見については0件であった。</p>

2 坂東市新行政改革プラン 2018-2021（案）について

第3 改革のアクションプラン（実行計画）の4つの柱ごとに資料説明・意見交換を行った。

※4つの柱、取組項目ごとに意見等を分類

（1）「みんなでつくる」市政改革

事項	意見・質問（要旨）	回答（要旨）
5 農業担い手確保	<p>近所は農家のかたが多いのだが、若い世代は坂東市に住んでいない、または農業以外の仕事に就いている等、農業の担い手が少ない状況となっている。農業が坂東市の基幹産業でありながら、担い手がないといった状況では先細りとなってしまう。</p> <p>農業大学校などが市内にあることから、これと連携するなど、何らかの対策が必要ではないかと考える。</p>	（意見として拝聴した）
	<p>（上記の意見に対して）</p> <p>J A岩井女性部ではこれからの担い手を育てるということで、女性をはじめ若い人たちをいかに農業に取り込むかを目標として各種事業を進めており、一環として料理講習会やパッチワーク、アレンジメントなどを実施している。</p>	（意見として拝聴した）

<p>(前頁から続く)</p>	<p>開始当初は子連れでも参加可能としていたが、現在は保育園や学校に通っている間に参加していただくように実施している。また、開催時期についても出荷が無い日時とするなど、参加しやすい工夫をしている。</p> <p>参加者は徐々に増え、現在40名程度で、80%は農業に従事されている家庭のかたであり、頼もしいと感じている。若い人たちを取り込むことにより、新たな農業の形態に対応していくことができると考えており、特に、女性についていかに取り込むか、それが今後の農業のカギになると考えている。</p> <p>このように、若い人の取り込みについて、期待を持って取り組んでいる。参考としてお伝えする。</p>	
	<p>(上記の議論に関連して)</p> <p>農業担い手確保における成果指標には、農業法人数の目標値が記載され、個人の認定農業者数は記載されていないが、どのような考えか。</p> <p>当市の認定農業者数は県内でも多い方だと思う。意欲のある若いかたが頑張っている姿が、つぶさに見られる。現在、国の認定農業者を増やしなさいという政策については、全ての市町村で取り組んでいるようであるが、担い手となる若い世代を認定していくような運用も必要かと思う。</p> <p>制度改正により、農業委員会委員の過半数を認定農業者にすることとなったが、このような観点からも認定農業者の位置付けが問われているのではないか。自らの経営改善目標を5年間示し、更新の段階で更に高い目標を設定する。これが認定農業者の審査の一つの対象となっている。坂東市としても400名超の認定農業者を増やしていくのか、現状維</p>	<p>認定農業者数は、手元資料で昨年末443名という実績となっている。委員のご指摘どおり農業の担い手については、農業法人と認定農業者の2本立てになるかと思われるが、担当課の趣旨としては大規模化と言う部分に焦点を当てて、今回の取組項目として取り上げたと推察される。意見を担当課へフィードバックしたい。</p>

<p>(前頁から続く)</p>	<p>持でいくのか、そういう部分もここに示すべきかと思う。総合的な視点で担い手確保のための施策が評価されるべきである。</p> <p>農業生産法人をどんどん作っていくというのは国の施策だと思うが、日本農業の基本というのは、農業生産法人だけでは成り立たない。末端に篤農家とか、そういう勤勉な農家があって、付加価値の高い農産物を作り、他の職業と戦えるだけの収入を上げていく。このような農家を坂東市はともに作っていく必要がある。農業生産法人だけでなく、個々の形態の中で、きちんとした農家を作っていく。このような取り組み無しには農業の発展は無いと思う。</p> <p>偏った施策ではなく、個々の立派な農家を作っていくという目標を作っていくことが重要である。</p>	
	<p>(関連意見)</p> <p>市内に農業大学校があるが、連携が不十分ではないかと思う。旧三和町であったかと思うが、6次産業ということで加工品を女性たちが作り、それが好評だという事を伺った。農作物の規格外のものなどを加工・販売すれば収益も上がり、農業も生産のみならず加工したものを販売していくなど、面白みを女性等が中心として実施できれば、うまく発展につながられるのではないだろうか。</p>	<p>(意見として拝聴した)</p>

<p>7 道路の里親制度</p>	<p>道路の里親制度については、どのような制度か。</p> <p>成果指標は、平成31年度に1団体となっているが、現時点では0件という事でよろしいか。</p>	<p>今年度8月に実施要綱を策定。市道の美化等の活動を行っていただく団体を募集し、ともに維持管理に取り組むという内容である。</p> <p>里親は、地域住民又は従業員等で構成される5人以上の団体とし、主に道路清掃・除草、街路樹の剪定、緑地帯の除草などをお願いする。里親になるには認定申請をしていただき、認定書を発行する。市は、里親の活動の際に、必要な道具等の提供や貸出、活動によって発生したごみの収集を行うといった支援を行う。</p> <p>経費的な利点のほか、日常生活に密着する道路を、地域の愛着により丁寧な管理と利用が期待できるのではないかと考えており、平成31年度に、まずモデル事業として1団体の認定を目標としていると思われる。</p>
	<p>5人以上の団体のかたが申請するという制度であるのなら、シニアクラブなどに問いかけてはいかがか？地元にいる方々であり、地元の人の中でのこの活動も団体の中に入れてはと依頼してはどうか。そうすれば里親が地域ごとに来るのではないだろうか。</p>	<p>高齢者の方々には、児童・生徒の見守りなどについても、ご協力いただいている。このようなケースについても期待できる事業の一つとして担当課へフィードバックしたい。</p>

(2)「後世に負担を残さない」財務改革

事項	意見・質問（要旨）	回答（要旨）
<p>28 新たな広告財源の確保(コミュニティバス広告利用)</p>	<p>コミュニティバスについては年間2万人程度の利用と資料に記載されているが、実際には運転手のみの状況も多く、広告料だけで運行に関する経費を賄うことは難しいと思われる。時間的な利用や学生が乗れるようにするなど、何らかの方策があるのではないかとと思われるが、運行はこれからも続けていく予定か？</p>	<p>利用状況については、9月末までに9,494人が利用し、1便あたり平均5、6人の利用となっている。合併後より運行しているが、利用者は減少傾向である。</p> <p>学校での利用については半谷、矢作のルートで学校の登下校利用に供している。市ではバスを現在3台所有しているが、その中でのルート設定であることから、学校全てを網羅することは難しい。</p> <p>また、9月の歩行者天国ではバスの乗り方教室を実施するなど、啓発を行ったが、費用対効果の面として、利用者一人当たり890円の運行経費となっており、更なる利用促進を図っていきたい。</p>
<p>31 補助制度の積極的な活用</p> <p>42 要介護認定率の低位安定化</p>	<p>医療費については、年々高齢者が増加しているため増加傾向と思われる。市ではこの抑制のための体操教室などを開催されているが、開催が月2、3回では意味がないと思う。</p> <p>個人的に週1回体操教室に参加しているが、頻度を増やしていくようであれば、医療費を抑制できるような体操教室にはならないのではないだろうか。医療費の削減を目的とするのであれば、頻度を増やさないと効果までは無理なのではないだろうかと思う。</p>	<p>医療費削減に関連する保健事業としては、糖尿病の早期対応など、具体的な病気の重症化予防に向けた取り組みなどを実施しているが、委員の質問の趣旨としては、42番「要介護認定率の低位安定化」に記載されている介護予防事業として行っているものかと思われる。</p> <p>指摘のあった実施回数等について、どう改善できるかフィードバックしたい。</p>
<p>34 水道料金納付に関する利便性向上のための取組</p>	<p>成果指標において平成33年度までに1件以上と掲げているが、どのような目標設定なのか。</p> <p>何らかの事務効率を図る場合において、システム導入などに多額な経費をかけることが必要となることも多いことから、導入検討の際は費用対効果などを併せてご検討頂きたい。</p>	<p>納付書と口座振替での収納事務を実施しているなかで、これに代わる電子マネーなど、新たな支払の手法を1件以上導入するという事としてご理解いただきたい。</p> <p>(意見として拝聴した)</p>

<p>39 リサイクル・リユースの向上</p>	<p>資源ごみ回収の日を行政区内で年間3、4回実施している。資源ごみを売却し、補助を頂いて行政区の収入としている。</p> <p>小中学校も廃品回収を行っている。結構な収入となるが、こういう資源ごみ回収を市でも、年3、4回とまでは言わないがクリーン坂東の日などに資源ごみを分けて収集すれば収入にもなり、ごみの量も少なく済むのではないだろうか。</p>	<p>意見については担当課へフィードバックしたい。</p> <p>参考として、市の課題としてごみ収集量は右肩上がり一方で、資源ごみの収集量が減り続けている。資源ごみのような有価物が減り、収集は増加ということとなっているので、日常的な取り組みを進めることで歳出抑制などにむけ力を入れていく必要があると思われる。</p>
--------------------------------	---	--

(3)「おもてなし」を体現するサービス改革

事項	意見・質問（要旨）	回答（要旨）
<p>69 ICT 技術の活用による細やかな図書館サービスの提供</p>	<p>ICT技術の活用による細やかな図書館サービスの提供について、具体的にどのような取組なのか分かりにくい。図書館に来館しなくても図書館サービスが受けられるということが記載されているが、どのようなことを想定しているのか。</p>	<p>担当課において構想段階となっている項目である。図書館の利用者が減少傾向となっていることから、例えば、小学校区単位での小さな拠点をつくり、移動図書館、出前図書館的なことができないかということを経験的に掲載したものである。</p> <p>分館や小学校等と連携し、資源の有効活用を図るということで説明させていただきたい。</p>

(4)「力強い市役所」をつくる組織と人材の改革

事項	意見・質問（要旨）	回答（要旨）
<p>71 職員提案制度の見直し</p>	<p>制度を見直すところがあるが、平成22年度から5年間で3件しか提出されていない、年1件にも満たない状況で、本年度5件という成果指標を掲げているが、現時点で職員提案は何件提出されているのか。</p>	<p>本年度、現時点で職員提案は未提出となっている。今年度は5件という目標を掲げているが、これまでどおりの取り組みでは達成が難しい。提案しやすい環境づくりについて、これまでと違ったアプローチにより取り組みたいという担当課から提案で、これにより今後件数の増加を図っていきたいと考えている。</p>
	<p>業務については市職員が一番知っているものと思われる。1課1提案ではなく、提案箱を設置するなど職員が提案できるような環境の整備により、提案が出てくるのかと思われるが、提案箱などは現在市役所に存在するのか？</p>	<p>提案については、所定の様式を総務課に提出し、内容を確認し、庁議で審査を実施するものである。委員ご指摘の通り提出のハードルが高いこともあり、担当課で活性化できる仕組みについて検討していきたいということである。ご意見は、担当課へフィードバックさせていただきたい。</p>
<p>85 ワークライフバランスの推進</p>	<p>坂東市の職員については有給休暇の取得率が低く、県内でも悪い状況となっているようである。</p> <p>取得できない理由についての分析はされているのだろうか。</p>	<p>行事等による休日勤務も多く、その関連もあったのではないかと推察される。</p> <p>各課の業務については、内容や量の調査により、見える化を進めたいと考えている。職員の適正配置、業務バランスを考慮しつつ、機構の見直しもするなかで、今後、推進していきたいと考えている。</p>
	<p>当行では、有給休暇は、誕生日、記念日等を併せて、年間で10日程度取得する体制になっている。管理職は同様の取得は厳しい状況となっているが、若い行員を中心に取得を進めている。</p> <p>以上、参考としてお伝えしたい。</p>	<p>(意見として拝聴した)</p>

(5) その他の意見

事項	意見・質問（要旨）	回答（要旨）
<p>○その他 今後の進捗状況について</p>	<p>今回の行政改革プランについては96項目と多岐にわたり、推進も大変なものと思われる。</p> <p>各項目において成果指標を掲げているが、本年度もすでに6か月経過し、今後も平成33年度まで目標設定を掲げている。「見える化」を進めるなかで、数値的に出せる項目とそうでない項目があるかと思われるが、進捗状況について極力数値化し見せていただけると分かり易い。</p>	<p>(意見として拝聴した)</p>
<p>○その他 業務継続計画（BCP）の策定、災害時対応等について</p>	<p>質問ではないが、市で業務継続計画（BCP）の策定や災害時のマニュアル整備を行うと伺ったが、弊社としても業務継続計画を策定した一方で、体制が整っていないのが現状であり、今後避難マニュアルも整備していかなくてはならない。</p> <p>是非、市の方で、包括的な業務継続プランやマニュアルなどを整備していただき、参考にさせて頂きたいと考えている。</p>	<p>(意見として拝聴した)</p>